

# 売薬の意匠あれこれ えすごろく 〈その18〉 絵双六

一般社団法人 北多摩薬剤師会会長 平井 有 (ひらい・たもつ)

双六には囲碁や将棋のように盤を使い、サイコロを振って白と黒の石を動かすバックギャモンのような盤双六と、サイコロを振って紙に描かれた絵の上で駒を進める絵双六があります。盤双六はサイコロを振って出る目の偶然に左右されることから賭博に用いられたため、一時、禁止令が出されたこともあるようです。

絵双六は7世紀頃に中国で誕生し、日本には江戸時代に伝わったと言われています。出たサイコロの目の数だけマス

を進める廻り双六と、マスにサイコロの目数に合わせた移動先が書かれている飛び双六があります。江戸時代後期に錦絵が作られるようになるとその技術で色鮮やかな双六が作られました。明治時代以降は文明開化や富国強兵をテーマにしたものが、児童雑誌の付録に使われました。

正月に家族で楽しむ遊びとして親しまれ、商品名や情報を印刷することのできる絵双六は、売薬の販促品としても重宝されたのです。



「すごろく ケロちゃん一家の世界一周」(縦420mm×横560mm) 飛び双六 興和(株)の双六。よく見るとインドのケロちゃんが「レスタミンコーワ軟膏」を持っている。



「世界童話めぐり双六」(縦380mm×横530mm) 飛び双六 現在は田辺三菱製薬(株)となった(旧)田辺製薬の小児薬「リジニン」の双六。



「月世界探検すごろく」(縦365mm×横510mm) 廻り双六 現在は第一三共(株)となった旧(株)三共のかぜ薬「ルル」や総合ビタミン剤「ミネビタール」の双六。地球をスタートし月面着陸で上がる。



「新案百薬保健寿互老久」(縦540mm×横785mm) 廻り双六 東京駅を振り出しに東京を一巡りして皇居で上がる双六。「宇津救命丸」などの売薬が登場。



「世界早廻飛行教育双六」(縦550mm×横790mm) 飛び双六 昭和6年に開港した東京飛行場(羽田)を飛び立ち世界を一周し、これを製作したであろう売薬卸(玉置合名会社)のある東京(日本橋)上空で上がり。



「コアラ・ゲーム」(縦315mm×横465mm) 武田薬品工業(株)の販促品だが、商品名や社名の記載が無い。パンダでスタートし、コアラで上がる。